

幸せ太りは本当に存在するのか？¹

Does marriage make you gain weight?

佐藤一磨* (拓殖大学政経学部)

Kazuma Sato (Takusyoku University Faculty of Political Science)

ksqwt864@gmail.com

日本人口学会第71回大会 報告要旨

幸せ太りは本当に存在するのか。また、有配偶者ほど未婚者と比べて体重が多いのか。これらの疑問について、我が国では人口学や経済学の視点からあまり研究はない。しかし、欧米諸国では肥満率の増加や結婚に伴う変化の1つとして注目され、さまざまな分析が行われてきた。これらの研究の理論的背景には、結婚市場の影響がある。潜在的な配偶者を結婚市場で探索する場合、自分の身体的な特徴が大きな影響を及ぼす。この身体的特徴の重要な要因の1つとして体重(またはBMI)があり、より望ましい配偶者と巡り合うために、体重を適正な値で維持できるよう投資すると考えられる。これはまた、結婚を機に市場から退出した場合、体重維持への投資を切り上げ、その結果、体重が増加する可能性があることを示唆する。このように結婚市場を介したメカニズムによって幸せ太りを説明することが可能となるが、この点について、欧米では理論と整合的な結果が得られている。これに対して、国内では研究はなく、その実態は明らかになっていない。そこで、本研究ではこのギャップを埋めるためにも、『日本家計パネル調査(JHPS)』を用いて実証分析を行った。

分析の結果、次の2点が明らかになった。1点目は、Fixed Effect OLSによる分析の結果、未婚者と比較して、有配偶者ほどBMIが高いことがわかった。また、結婚直後の数年間に注目すると、BMIが持続的に増加していた。この増加傾向は、特に女性で顕著であった。2点目は、Unconditional Quantile Regression Model with Fixed Effectによる分析の結果、結婚直後のBMIの上昇は、40%~60%分位の中位層と80%~90%分位の上位層で見られることがわかった。特に上位層のBMIの上昇の値は大きく、結婚直後にもともとBMIが高い層ほど、さらにBMIが増加する傾向にあることがわかった。この結果から、時間割引率が高く、もともとBMIが高い人ほど、幸せ太りの効果が顕著にみられると考えられる。

¹本稿の作成にあたり、慶応義塾大学パネルデータ設計・解析センターの『日本家計パネル調査』の使用許可をいただいた。ここに記して感謝する次第である。

* 拓殖大学政経学部准教授

以上の分析結果から、我が国においても幸せ太りが存在することが明らかになった。結婚直後から BMI が増加する傾向を考慮すると、結婚市場において配偶者の探索が終了したことに反応していると考えられる。この傾向は仮説と整合的である。

本研究の貢献は、これまで国内で検証されてこなかった BMI と配偶状態の関係をパネルデータを用いて明らかにした点にある。また、これまでの先行研究でも使用されていなかった Unconditional Quantile Regression Model with Fixed Effect を使用し、BMI の分布に対する結婚の影響を明らかにした点も新規性があると言える。

本稿に残された研究課題として挙げられるのは、結婚と BMI の間に存在する逆の因果関係への対処である。今回の分析では結婚が BMI に影響を及ぼすことを想定していたが、欧米の先行研究では逆に BMI が結婚確率に影響を及ぼすことが明らかになっている。このような逆の因果関係に対処するためにも、次の研究では Blundell and Bond (1998) の System GMM を用いた分析を行っていきたい。

参考文献

Blundell, R. and S. Bond (1998) "Initial Conditions and Moment Restrictions in Dynamic Panel Data Models," *Journal of Econometrics*, 87, 115-43.